

第一幕

登場人物…

ハンプティ

ダンプティ

ウイリー

マーニ

月の娘

マザー・グースの世界、夜の街角。

軽く心地良い足音を鳴らしてウイリーが駆けている。

ナイトキャップにナイトガウン、手には蝋燭、足は裸足。

ウイリーは眠りの精、どんなに急いで走っても、

その足音は風のように穏やかで誰の眠りも妨げない。

家々の鍵穴を覗き込みながら通り過ぎていくウイリー。

街角に人気は少ない。

眠りを具現化したようなゆったりとした口調。

全体的に心地良い印象を与えるように。

ウイリー

「♪ち・く・た・く、八時だよ。」

時計の針は上り坂、これから夜の坂を上るんだ。

エイト
オックロック
アット
ナイト
8 o'clock at night.

「起きている子はいないかい」

リスナーを見つけてにっこり微笑み近寄ってくる。

窓の枠を乗り越えて着地。

室内に入って初めてぺたぺたと裸足の音がする。

ウイリー

「その君。眠れないの？」

「なら僕が『お休み』の魔法をかけてあげる」

トーンを落として囁きMAX。

サービスシーンのためここから若干小悪魔モード。

ベッドの縁に腰掛け、毛布をかけてあげながら。

ウイリー 「♪ Good Night, Sleep Tight,

虫なんか刺されないように。

ひとつ、布団をかぶって。

ふたつ、目を閉じたら。

みつつ、抱き締めてあげる。

あ、いけない子だねえ」

囁きの途中で布団を出ようとしたため、

ゆっくり押し倒してちゅっと軽いリップ音。

ウイリー 「ほおら、悪い虫に刺されちゃった。

ママが見たら何て思うかな。怒られちゃうかな？。

君がちゃあんと八時に眠っていたら、

ママもただの虫だと思ってくれるかもね。

へくすくす笑い」

ごめんごめん、真っ赤な頬っぺが可愛くてつい。

さ、早くお休み。また虫が悪さをしない内に、ね」

頭を撫でてベッドを降り、通常運転に戻る。

入って来た時のようにぺたぺたと窓際へ向かう。

帰りの方が若干忍び足気味で。

ウイリー 「♪ Good Night」

茶目っ気たっぷりに手を振って窓の外へ。

街角に戻ると、空を月の馬車が翔けていくのが見える。

馬車の御者は見目麗しい青年マーニ。

バギー（馬車の客席）には美しい娘Ⅱ満月が座っている。

ウイリー 「やあや、マーニ。月の御者、マーニ。

これまた綺麗なレディを乗せて。

お星様がみいんな隠れん坊しちやってるのは、

レディがいつとう輝いてるからだね」

月の娘 「ご機嫌よう、ウイー・ウイリー・ウインキー」

ウイリーが馬車に併走しながら。

ウイリーの名前は長いから、歌うように拍子をつけて。

全キャストの間で同じ拍子で統一。

ウイリー

「ご機嫌麗しゅう、お姫様。

嗚呼もう、ちよつと、意地悪だな。

マーニ、マーニ、お話くらいさせてよ。

君の馬車はどうにもこうにも急ぎ足過ぎる」

マーニ

「眠りの精、ウィー・ウイリー・ウィンキー。

悪いが相手をしてる暇はない」

ウイリー

「そんなつれない事言わないで」

車輪ががたと回る音、少しだけ馬車が速度を落とす。

月の娘

「ごめんなさいね、ウイリー。

怖ろしい狼さえ追って来なければ、

貴方と沢山お話だってできるのだけど」

マーニ

「奴らに捕まるわけにはいかない」

相変わらず風のように穏やかに併走するウイリー。

少しずつ息遣いだけが変化する。

ウイリー

「そいつは一体何なんだい？

そんなに怖い奴なのかい？」

マーニ

「我らを馬車ごと丸呑みにするほどの大狼だ。

怖くないわけないだろう」

ウイリー

「おおおおかみ？ おーおーかみだって？

嗚呼、これは何て失敬！

何も知らずに邪魔をして悪かった。

僕はここらでお暇いとましよう」

遠くから狼の遠吠えが聞こえ、マーニが馬に鞭を打つ。
いなな
嘶く馬、馬車が一気に加速する。

マーニ

「そら来た、奴だ！ 月追いハテイのお出ましだ！」

月の娘

「ウィー・ウイリー・ウィンキー。

また次の満月に会いましょう。

それまで世界に、昼と夜とがありますように」

馬車が遠ざかり遠吠えがその後を追い駆けていく。

距離が開き、最後は月の娘もウイリーも叫ぶようにして。

ウイリー

「♪ Good Night,

僕達夜のお姫様、貴女達に幸運を！」

見送りながら独り言。

ウイリー

「なるほど、どうりで、そういうわけだ。

月はいつつも走りっぱなしでいるわけだ。

欠けては満ちて、昇っては降りて。

可哀想なレディにマーニ！ 休む暇もありやしない」

ウイリーが空から地上に降り立って街角に戻ると、

そこにはハンプティ・ダンプティ。

二人の台詞は一人が読むものを交互に分割しているため、

演技の際は二人分の台詞の流れに特に気をつける。

ただし、二人の間で会話になっている部分は例外。

ハンプティ

「こんばんは」

ダンプティ

「綺麗な夜だね」

双子

「ウイリー・ウイリー・ウインキー」

ウイリー

「やあや、ハンプティ・ダンプティ。

小ぢちいやかな可愛い双子さん。

もうとっくにおねむの時間は過ぎてるよ？

♪羊と一緒に家へお帰り。

朝は雲雀ひばりと一緒に起きて、

夜は暗くならない内に、

良い子は安らかに寝るものさ。

お月様が出たらのなら、子供は眠るものなのさ」

羊とくからのくだりはマザー・グースの子守唄から引用。

子供を寝かしつける呪文のように、独特の拍子をつけて。

ダンプティ

「うーん、でもねえ、ハンプティ？」

顎に手を当てて考え込むような仕草でダンプティを見る。

ハンプティ

「私達だって眠りたいのは山々よ。ねえ、ダンプティ？」

ダンプティ

「眠れぬ夜は寒いよ、寒い」

ハンプテイ 「眠れぬ夜は怖いわ、怖い」

ダンプテイ 「星はこうこう、闇はひたひた」

ハンプテイ 「鼻ふくろうほうほう、狼アオオン」

次の台詞は特に情念を込めて。

朝、あるいはもつと遠い何かに恋焦がれるように。

ダンプテイ 「朝が遠いよ」

ハンプテイ 「♪インソムニア」

ダンプテイ 「♪インソムニア」

台詞というよりはハモるように、インソムニア。

前の台詞と被っても良し。

ウイリー 「…：眠れない、だなんて。

嗚呼、何だろう、そんな寂しい事があるなんて。

眠りは優しく、暖かくて、

とても穏やかなものなのに。

君達はそれを感じる事ができないんだね。

僕にできる事はないのかな。

ホットなミルク？ 安らぎのハーブ？

何だって用意してあげるよ。

だって、そう、僕は眠りの精なんだから！」

ウイリーが『嗚呼』を口にするのは三度目、ほぼ口癖。

気まずい沈黙にウイリーの語尾がしんと響く。

ウイリー 「はは、僕って無力だなあ。

何もしてあげられないなんて」

誤魔化し笑いをしながら俯くウイリー。

双子 「「…：」」

顔を見合わせてからウイリーに近付く。

俯いているウイリーを挟み込むように両側から。

ハンプテイ 「ねえ、ウイリー。そんな哀しい顔をしないで？」

ウイリー 「ハンプテイ…：」

ダンプテイ 「そうだよ、君の所為じゃない」

ハンプテイ 「貴方はとっても、優しいわ」

ウイリー 「君達こそ、何て優しい子達だろう。」

僕にできる事はといえば。

せめて、そうだ、お星様に願いをかけよう。

♪星の光よ、輝きよ、

そう、あそこの、満月の中でも独り瞬く一番星。

♪ Light, Bright, Tonight.

May, Might, Tonight.

どうかお願い聞いとくれ。

この子達がぐっすり眠れますように」

英単語の読み方はそれぞれ韻を踏んでいる。

『Star Light, Star Bright』という願掛け歌より。

ハンプテイ 「ありがとう、ウイリー。私達なら大丈夫」

ダンプテイ 「そうとも、ウイリー。心配しないで」

ウイリー 「…:ごめんね、僕もう行かなくちゃ。」

地球は回る、くるくる回る。

月も巡る、くるくる巡る。

東が日暮れりや、次は西。

寝た子が起きりや、また子が眠る。

僕もマーニと同じだ、休む暇もありやしな^{おんな}い」

最後の一行は自嘲するように、独り言。

ハンプテイ 「あら、マーニがどうかしたの？」

ウイリー 「いいや、こつちのお話さ。」

それじゃあさよなら、小ぢやな可愛^{ちい}い双子さん。

せめて君達の行く夜が、静かな夜でありますように！」

手を振って駆けていくウイリー、見送る二人。

ダンプテイ 「♪ Good Night,」

ハンプテイ 「それから、
スリープ
♪ Sleep Tight」

『Sleep Tight』は少し含みを持って、ゆっくりと。

『ぐっすりお眠り』という本来の意味ではなく、
タイトⅡ『きつい』と単語そのままの意味で使っている。

ダンプテイ 「泥のように深あい、夢の中でね……」

くすくす、と微かな笑い声を残して二人も踵を返す。

夜はまだまだ続く、という印象を残すため

BGMはゆったりとフェードアウト。

第二幕のBGMと同じならばそのまま継続。

違うBGMを使うならば、フェードアウトとクロスして

第二幕のBGMがフェードインする。

解説…

プロローグから場面転換し、

舞台はマザー・グースの世界へ。

二人の言う夢Ⅱマザー・グースの世界そのもの。

歌によって役割やストーリーが与えられ、

その通りにしか動く事のできない登場人物達への皮肉。

以降の展開もマザー・グースの歌の筋書きに沿うため、

作品の全体に対する皮肉と捉えても良し。

二人もマザー・グースの登場人物ではあるが、

メタ視点を持った例外的キャラクター。

他ではレンなども同様にメタ視点を持っている。